

令和4年度
学校関係者評価書

〈専〉 京都伝統工芸大学校

学校関係者評価委員会開催の記録

1. 開催日時 令和5年2月17日（金）午後3時00分～午後4時30分

2. 開催場所 京都伝統工芸館 8階会議室

3. 出席者

山下	俊彦	京都府南丹教育局長
杉島	敬志	放送大学京都学習センター 所長
三田	康明	生田グローバル（株）顧問
兼松	俊明	京都漆器工芸協同組合 理事長
太田	知良	卒業生
草留	大優	卒業生
田中	宏明	卒業生田中めぐみさんの保護者

(学校関係者)

新谷校長 工藤教務部長 近藤事務部長

4. 学校関係者評価委員会で検討された事項

検討事項				学校関係者の評価・提言
基準	項目	総括	自己評価	
教育活動	目標の設定	<p>専門実習を重要科目として位置づけ、これを中心に授業を行っている。</p> <p>適宜施設整備を行っている。</p> <p>教育課程の編成方針、実施方針については毎年学生に「教育計画」を配布している。</p>	5	適正に運営されている。
	教育方法・評価等	<p>講義・演習・実習等授業形態については毎年担当講師と問題点、改善点を確認し改善を進めている。</p> <p>毎年年度末に授業アンケートを実施。改善につとめている。</p>	5	適正に運営されている。
	成績評価・単位認定等	<p>成績評価・単位認定について、専攻の講師評価を基に教務会議で判定している。</p> <p>卒業・修了制作展では、行政・業界関係者が審査し、受賞者を選出している。</p>	4	適正に運営されている。
	教員・教員組織	<p>常勤・非常勤講師を問わず、採用・育成の各段階における体制が整っている。年齢構成の均衡については課題が残る。</p>	4	常勤・非常勤を問わないFDの実施を検討したい。
学修成果	資格・免許の取得率	<p>資格取得者を多く輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。</p>	4	小目標をいくつか設け、最終的に伝統工芸士の取得を目指す工夫を評価したい。長期的な目で見ていきたい。
学生支援	学生相談	<p>学生の兆候を担当が見逃さずに捉え、その都度対応している。節目ごとに個別面接を行い、進路、悩みなど聞きだし対応している。結果は指導記録にまとめ情報共有している。</p>	4	<p>学内に学生相談室を設置し、専門相談員に心身についての相談ができる体制をとっている。日常の体調不良、健康相談やケガの応急処置に対応している。</p> <p>近隣の医療機関とも連携し緊急時においても対応している。</p>

	保護者との連携	<p>定期的に行っている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接している。</p> <p>学内のホームページにおいて、日々の教育活動に関する情報をアップすることにより、保護者へ情報提供を行っている。</p>	3	<p>学校生活をホームページに掲載し、保護者へ情報提供する取組みを評価する。</p> <p>担当者の負担が懸念されるが、学校・学生・家庭の方向性が一致した上での指導を継続して欲しい。保護者説明会の実施などは家庭との連携関係構築に大いに資するものとする。</p>
学生募集	学生募集活動は、適正に行われているか	<p>将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、納得のいく進路決定を実現させたいと考える。高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。</p>	4	<p>オンラインでの説明会等、状況に応じた取り組み・工夫を評価する。</p>
法令等の遵守	学校評価	<p>自己点検・評価報告書を全項目WEBに掲載している。学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。</p>	4	<p>適正に運営されている。</p>
	教育情報の公開	<p>学校の概要や教育内容はWEBに掲載している。教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。</p>	4	<p>適正に運営されている。</p>

5. 総括

- 1) 本年は、個人情報の保護や情報漏洩の防止対策が議論にのぼった。在校生、卒業生、その父兄など学校が預かる個人情報は膨大でその取扱いについては十分な対策が求められる。従来の対策に不備がないか定期的に点検し、継続して取り組むことを求めたい。
- 2) 本年の議論のなかでも、疾患を抱えた学生への対応に苦勞しているとの報告があった。人員が限られるなかで、関係者の負担は相当なものと思われる。保健師、カウンセラーの配置体制の強化、父兄との緊密な連絡などにより、学生を支援していることを評価したい。疾患を抱えた学生の受け入れは今後も継続する。目の前の課題への取り組みの中で改善を重ね、良好な就学環境の維持を期待したい。
- 3) 本年の議論のなかでも、学内の様々な場面で、教員と学生が適正な距離をもって手厚い指導が行われていることが確認できた。知識の教授や技能の習得に加えて、思考力・表現力などの育成につなげて欲しい。そのためには、教職員が学生の「生きる力」をはぐくむ理念を共有し、継続して組織的に取り組む仕組み作りが重要である。自己点検を繰り返しながら、長期的な視点での取組みを求めたい。
- 4) 幼少期におけるものづくり経験が不足している学生の迎え入れ、止むことのない感染症への対応、少子化の進展など学校運営に伴う苦勞はいや増すばかりである。そのなかで入学生を迎え、伝統産業界へ一定数の卒業生を送り出せた。基礎からの手厚い技術指導、作品展の開催等の一連の行事にとどまらず、海外メーカーとの協力による奨学給付金制度の創設や、府下の老舗メーカーと商品開発に取り組むなど現状維持にとどまらないカリキュラム改善への取組みを大いに評価する。
- 5) 学校関係者評価委員会は、大学校での学生指導、教育編成、自己評価等の学校運営について、企業、卒業生、父兄の視点から検証を行うものである。今後も、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、学校が社会の信頼を得られるようにサポートしていきたいと考えている。